

第54回小金井市市民参加推進会議

日 時 平成30年10月19日（金）午後7時00分～午後8時39分

場 所 本庁舎 第一会議室

出席委員 10人

委員長 日向 信 和 委員

副委員長 渡 邊 大 輔 委員

委 員 岡 田 一 美 委員 村 田 淳 委員

本 田 哲 朗 委員 鴨 下 明 子 委員

森 田 眞 希 委員 中 村 彰 宏 委員

天 野 建 司 委員 加 藤 明 彦 委員

欠席委員 2人

荒 城 真 美 委員 鹿子木 将 登 委員

事務局職員

企画政策課長 梅 原 啓太郎

企画政策課主任 東 條 俊 介

企画政策課主事 齋 藤 彬 子

傍 聴 者 0人

（午後7時00分開会）

◎日向委員長 皆さん、こんばんは。それでは、第54回市民参加推進会議を始めさせていただきます。

本日は、鹿子木委員、荒城委員から欠席の連絡が入っております。遅れて出席されるとの連絡をいただいた委員はいらっしゃらないです。全員御出席いただいています。

定足数につきましては、市民参加条例施行規則第24条に、半数をもって成立することになってございます。12人中10人御出席いただいておりますので、本推進会議は成立しているということで御報告申し上げます。

それでは、配付資料について、事務局のほうで確認をお願いします。

◎事務局 それでは、資料の確認をさせていただきます。事前にメールをさせていただき、机の上に配付させていただいているものが6点ございます。

まず、本日の次第でございます。次に資料1としまして「平成30年度小金井市市民意向調査（速報版抜粋）」ということで、A4で4枚ホチキスどめしているものがございます。それから資料2としまして「第5次小金井市基本構想・前期基本計画の策定に向けたワークショッ

プの概要について」という、A4、1枚の資料がございます。それから資料3「第7期推進会議行程表」、こちらもA4、1枚の資料でございます。それから参考資料といたしまして、前回、53回の際の配付資料、A4、1枚「提言に向けて（たたき台）」という資料を配らせていただいております。それから、前回の会議録についてもお手元に配らせていただいております。これは既に確定しまして、ホームページにも掲載しているものになりますので、後ほど御確認いただければと思います。

以上6点、不足などございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

ありがとうございます。

◎日向委員長 それでは、次第に沿って進めたいと思いますが、会議に先立ちまして、9月に開かれました小金井青年会議所のイベントについて報告したいと思います。

事務局より御説明をお願いします。

◎事務局 先日、9月9日に小金井青年会議所の創立45周年記念事業としまして「若者×地域～未来へ繋ぐまちづくり」というイベントが亜細亜大学で開催されました。地域の若者によるまちづくりがテーマであったことから、市民参加推進会議の委員の方々にぜひ御出席いただけないかというお声かけがありまして、皆様に御案内をさせていただいたところでございます。当日は日向委員長、中村委員、岡田委員に御参加いただきまして、まことにありがとうございました。せっかくの機会ですので、参加いただいたお三方にそれぞれ一言、御感想などいただければ大変ありがたいと思います。よろしくをお願いします。

◎日向委員長 9月9日に開催いたしました小金井青年会議所のイベントには、私も参加させていただきましたが、今、事務局からもありましたけれども、参加いただいた委員の皆さんに一言いただければと思います。

では、中村委員からお願いいたします。

◎中村委員 今御案内がありましたとおり、委員長と岡田委員に加えて私が参加いたしまして、この会議については、小金井青年会議所の創立45周年を記念して行われたものでありまして、今回は全くいつもの会議とは違って新たな形式で、1部が講演会ということで、講師の方お二人からお話がありました。1つが高橋恵さんという方で「地域貢献と自己成長」についてお話がありました。それからもう一方が角田千佳さん、「繋がりがつくる未来」ということでやはりお話がありました。お二方とも会社経営をされている方で、そういった講演をベースに、2部でグループディスカッションと交流会が行われまして、大体1つのグループが六、七名ぐら이었다と記憶していますが、グループに分かれて、お題が、どうすれば若者と地域が繋がりが合い、まちづくりを行っていきけるのかをディスカッションして、テーマとしては「地域の好きのところ、嫌いのところ」「地域でやってみたい事、あったらいいと思う事」、特に、地域で新たにやってみたいこと、あったらいいと思うことを、グループディスカッションを踏まえてまとめていくということでありました。

それぞれのグループでそのお題について話し合われまして、全く初めて顔合わせをするメン

バーにもかかわらず、短時間で素晴らしい意見が続出して、それらの集まった意見を市長をはじめとする審査員が審査した結果、最優秀賞を得たのが、震災等の避難所の疑似体験をするという案でありました。その辺が特に市長のハートをつかんだんじゃないかと、時宜にかなったものであったということで、最優秀賞を得たということです。

もちろん、ほかのグループも非常に目新しい、斬新なアイデアを短時間でまとめ上げて、素晴らしいアイデアが続出しましたが、もう大分前のことで私も記憶から薄れていますが、1位をとったのは避難所の疑似体験ということで、それをやっていこうということで選ばれたということです。

◎日向委員長 ありがとうございます。

岡田委員、お願いします。

◎岡田委員 ほとんど概要は中村委員に言っていたので、私の感想なんですけど、私のグループワークのチームは大学生3人で、農工大の男の子が1人と学芸大学の女の子が2人で、たしか、今の子は何かメリットがないとそういうところに参加しないようなことを、ここでもお話ししていた記憶があるんですけど、正直その3人に関しては、とても前向きに参加していただいて、メリット云々ではなくて来ていただいたのではないかなと思います。男の子のほうはどちらかというと遠慮しがちで、やっぱり女の子のほうがたくさんお話をするという感じで、私もあまり20代の子と話す機会がないので、多分そのグループの中では、青年会議所の方を入れても私が一番年上だったと思うんですけども、女の子に関しては、ボランティアで発達障害の子供のケアをしている子であったり、勉強を教えているという話も聞きましたし、何かメリット云々というよりは、子供が好きなのでやっているとか、すごく勉強になる、多分、自分の学んでいるものに対してすごく勉強になるといったような形で参加しているんだと思います。

グループワークに関しても、ジェネレーションギャップのようなものを感じたのは、すごく正直で、おもしろくないとかはっきり言うんですよ。こっちはちょっと遠慮して言えないようなことも、例えば2人の方が講義をしてくれたんですけども、多分、興味がない方の講義に関しては、もうLINEですよ。ちょっと自分の興味のあることに関してはすごく聞く。で、私たちは何をやろうかという話になったときに、農業体験とかできたらすごく楽しいとその子たちが言っていたので、みんなで小金井ラーメンを作ろうとか、いろんなことをこういうふうに話して、すごく話自体は盛り上がりました。

最後のほうにフリートークみたいな時間をいただいたんですけども、やはりそこも若者らしいというか、全くフリートークには参加せず、絵を描きながらしりとりをするというのを始めて。じゃ、フリートークですと、五、六人のメンバーがいたとしても、別に私たちは関心のないことには関心がないのよと、すごくはっきりしているというか、私も勉強になりました。私は何をしたらいいかなと思ってしりとりに参加して、とても盛り上がりました。男の、青年会議所の方2人は2人でしゃべっていました。なので私と学生さんとでしりとりをずっとして

いたという感じなんですけれども、あと、私がちょっとショックだったのは、小金井公園でドライビングシアターができたらすてきじゃないみたいなことを言ったら、誰一人、ドライビングシアターを知らず、えっ、それ、何ですかみたいな感じだったので、ちょっとそれはショックだった。でも皆さん、若い子もただメリットがなければ来ないというわけではなくて、やはり内容であったり、発信して、知ることによって参加してもらえないかなということがわかりましたというか、勉強になりました。

◎日向委員長 ありがとうございます。

私のグループは学生も1人いたんですけれども、既に働いている人もいて、参加のきっかけを聞いたら、JCの人に声をかけられましたということで、やっぱり直接声をかけるのも大事だなということを痛感しました。JCの方が進めていらっしゃるんですけれども、すごく上手だったんですね。やっぱり進める人の個性というか、あと多分、進め方もJCの方でよく勉強していたんだと思いますね。知らない人がいきなり集まるので、アイスブレイクみたいなことをしたり、進め方が非常に大事だなというふうに思いました。

私のグループの人はすごくおとなしい人で、すごく真面目でした。ポイントはファシリテーター、どうやってファシリテートするかということと、みんなばらばらにファシリテートするのではなくて、隣もちょっと見ていたんですけど、やはり同じようにやっていたので、ファシリテートする人たちの意思統一というのも大事だなということを感じました。

ほかの委員の方で何か発言のある人はいますか。よろしいですか。

それでは、改めまして次第に沿って進めたいと思います。次第2、市民参加条例運用状況等について、(1)今期の提言に向けてを議題といたします。本日は事務局より、現在、市で進めている調査などについて情報提供がありますので、まずはそちらの報告をいただきます。事務局からの説明をお願いします。

◎事務局 それでは資料1、「平成30年度小金井市市民意向調査（速報版抜粋）」を御覧いただきたいと思います。小金井市では、市の10年間の最上位計画であります第4次小金井市基本構想に、平成23年度から取り組んできたところでございますが、平成32年度で計画期間が終了となることに伴いまして、新たな基本構想の策定に向けて、市民の皆様の御意見を参考とさせていただくために、アンケート調査を実施いたしました。これがこの小金井市市民意向調査でございます。

こちらの調査は、小金井市内に在住する、外国人を含む満18歳以上の方を無作為に2,000人抽出し、郵送配布で本年7月中旬から約1カ月間で行ったものでございます。この調査の結果の速報版が出ましたので、市民参加に関連する箇所を抜粋し、参考に配付させていただくものでございます。なお、まだ速報版でありまして、数字自体も今後、動く可能性がありますので御了承いただきたいと思います。また、現時点ではそれぞれの質問に対する単純集計しか出ておらず、項目と項目を合わせたクロス集計、例えば前回の会議では、渡邊副委員長から御意見をいただきましたが、年齢別の調査結果などは、申し訳ありませんがまだ間に合っており

ません。

それでは、内容につきまして順番に説明させていただきたいと思います。まず1ページ目、最初のページ、回収結果を掲載しております。2,000人に配布いたしまして、回答数は626人、31.8%の回答率でございました。

次に2ページ目を御覧いただきたいと思います。こちらに挙げております29項目につきまして、満足度などについてアンケート調査を行っているものでございます。下から4番目に「市民参加・市民協働」の項目がございます。全体の満足度につきまして、「満足」、「やや満足」を合わせて21.4%でございます。4年前に実施しました同じ調査では、項目が市民参加と市民協働ということで分かれておりましたが、市民参加で18%、市民協働で16.3%という数字となっておりますので、やや上昇しているかなという結果となっております。

それから次のページにまいりまして、今後の重要度についてでございます。こちらの下から4番目に「市民参加・市民協働」がございます。こちらは、「重要」と「やや重要」を合わせまして52.8%でございます。4年前の調査では合わせまして60%程度でございましたので、こちらは若干下がった結果となっております。

次のページに進んでいただきまして、(1)「今後、特に優先的に進めていく必要がある取組について」でございます。こちらは下から6行目に「市民参加・市民協働」がございます。2.1%という結果でございます。こちらは4年前の調査では市民参加が1.8%、市民協働が1.0%でございました。

次のページに進みまして、(2)「小金井市の行政情報、生活情報の入手手段」でございます。こちらにつきましては、「市報」が突出して多くなっておりまして、83.7%という結果でございます。ただし、この結果につきましては、市報は全戸配布しておりまして、能動的に見に行かなくても目に入るという部分、それから、それ以外の媒体の広報力が少ないのではないかとといった影響の可能性もございます。先日の会議でSNSの話題もございましたので、参考として資料につけさせていただきますいております。

その次のページにお進みいただきまして、このページからは「地域活動等への参加状況と今後の参加意向」ということについての問いでございます。順番に、今までに1回でも参加したことのある地域活動、最近1年間の参加状況、今後の参加の意向について聞いております。こちらについては詳細は資料を御覧いただきたいと思っております。

◎日向委員長 事務局の説明は終わりました。意見等がございましたらお願いいたします。

◎中村委員 この市民意向調査は、市のほうからコンサルか何かに依頼されたということです。それからもう一つは、お手紙をランダムサンプリングで2,000人に配布されて、その中から有効回答数626、返信封筒に入れた、そういう理解でよろしいでしょうか。

◎事務局 アンケート調査について2点御質問いただきました。こちらについては、いわゆるコンサルさんに委託する形で実施しております。また、郵送でアンケート用紙をお送りしまして、郵送で回収するという形をとっております。

◎中村委員 ありがとうございます。

◎日向委員長 ほかにいかがでしょうか。

◎渡邊副委員長 有効回答率について少しだけ伺いたいのですが、これは、前回調査もこれぐらいなのでしょうか。自治体がやる調査として、あまりしっかりやっていないければ大体こんなものかなと思うところもあるんですが、もう少し工夫できるような気もするので、かなり有効回答率が低いので、データの信頼性自体にかかわってくるので、このあたりについてお伺いできればと思います。

◎事務局 前は35.7%でしたので、回答率としてはちょっと下がっている形です。回答をいただけていない方をお願いのはがきなども出させていただいておりますが、結果としてこれぐらいの回答率ということでございます。

◎日向委員長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

◎渡邊副委員長 2ページを御覧いただくと、満足度が出ております。「市民参加・市民協働」、色が見にくいのですが、63.4%は「どちらともいえない」ということで大丈夫ですか。

◎事務局 おっしゃるとおりです。

◎渡邊副委員長 そうしますと、満足度は全体では「満足」「やや満足」を合計して21.4%ということなんですが、不満足というわけではなく、判断できないと考えている方がとても多い。多分、これはどちらかというところと不明に近くて、よくわからないという形で答えた方が多いということだと思います。そういう意味では、不満よりは満足のほうが上回っているということと言えるだろうと。ただ、やはり6割以上の方がよくわからないという形でおそらく答えているという点をどうするかが、むしろ課題というふうに考えたほうがいいのか。不満があるから低いというよりは、よくわかっていないから低いというふうに考えたほうがいいのか。と思っております。これはコメントです。

◎日向委員長 ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

私から事務局に質問していいのでしょうか。とりあえず、これは速報版ですけど、最終版というのはいつどういう形でまとまるんですか。

◎事務局 最終的なものはやはり3月ぐらいになるかと思います。そのときにはさまざまなクロス集計なども行いまして、単純集計だけよりはいろいろな分析ができる形になってくるかと思っています。

◎日向委員長 何かこう文字で、分析するとこんなことが考えられるとか、そういうコメントみたいなものも入った形で公表を予定しているとか。差し支えない範囲で結構なんですけど、まだこれからということですか。

◎事務局 細かいことはこれからなんですけど、年齢別とかそういったところは特に注目していきたいところかなと思っています。

◎日向委員長 ほかにいかがでしょうか。

◎中村委員 たびたびすみません。この市民意向調査結果というのを、第5次小金井市基本構想・前期基本計画の策定に向けたということですが、このデータをどのように活用されて、基本計画の策定に向けて利用されるのかというのを、具体的なところをお伺いしたいんですが、いかがでしょうか。事務局にお答えいただくことになりましたが、お伺いします。

◎事務局 やはり、結果を見てみませんとどの部分をということは言えないんですけども、結果をよく見まして、来年度になりましたらまた市民の方に御参加いただく審議会も開催していく予定となっておりますので、そういったデータについてもよく御確認いただきながら、長期総合計画の策定に生かしていきたいというふうに考えております。

◎日向委員長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

私から、もしわかる人がいたら教えていただきたいんですけども、3枚目の裏と4枚目の表なんですけれども、地域活動への参加状況で「地域で開かれるイベントへの参加」というのが一番多いんですけども、これは具体には何だと推測されますか。特に「週に1～2回」という人が3割いるということですよ。

◎渡邊副委員長 月に1～2回……。

◎日向委員長 月ですかね。

◎渡邊副委員長 月か年に数回かもしれません。

◎鴨下委員 年じゃないですか。

◎日向委員長 年ですか。なるほど、随分頻度が多いかなと思いました。

地域で開かれるイベントに参加していますというのは、何のことを指しているかわからないですかね。

◎森田委員 私は仕事も住まいも小金井で、月に二、三回は、例えばお祭なんかもそうですし、あと、防災のこの地域の集まりですとか、子ども会のこととか。

◎日向委員長 自治会とか、市民の行事ということですかね。わかりました。

◎渡邊副委員長 子ども会とか自治会は上で全部あるので、それ以外だと思えます。むしろ商店街とかなのかなと思って、わからなかったんですけど、いろんな可能性があるなと思えます。

◎森田委員 そうですね、上にありますよね。

◎日向委員長 ありがとうございます。

ほかに何かございますか。この件は大体よろしいでしょうか。

続いてもう1点、事務局から資料をご用意いただいておりますので、事務局から説明をお願いいたします。

◎事務局 それでは、資料2です。「第5次小金井市基本構想・前期基本計画の策定に向けたワークショップの概要について」という資料を御覧いただきたいと思えます。

現在、市では、先ほど申しましたとおり、第5次小金井市基本構想、それから前期基本計画

の策定に向けまして準備をしております。この策定に向けてワークショップを開催し、市民の皆さんからの御意見を伺うものでございます。

資料の（４）に開催形式として記載させていただいておりますが、ワールドカフェ方式を予定しております。ワールドカフェ方式とは、こちらにも記載しておりますとおり、いわゆるカフェのような空間で、テーマについて自由に対話・討論をしていただき、その中で新たな理解や気づきを得るといふ、ワークショップの形式の一つでございます。市民の皆さんが、リラックスした雰囲気の中で市政に対する自由な御意見を出していただきたいという趣旨で、今回採用しているものでございます。

進め方の予定についてでございます。（５）にございますけれども、６人９グループに分かれまして、それぞれのテーブルでグループごとに、ファシリテーターのもと、３つのラウンドに分けてお話をさせていただき予定でございます。まず、ラウンド１として、現在の小金井市の強み、今の小金井市についてのお話、魅力、課題などについて。次にラウンド２で、未来の小金井市、こんな小金井市にしたいという将来像について討論をいただきます。続いてラウンド３として、ラウンド１の現在の小金井市から、ラウンド２の未来の小金井市へどうすればつながられるかということについてお話をいただきます。最後に、各グループで出た意見を振り返り、全体で共有するという流れになります。

なお、資料（６）にありますとおり、このワールドカフェは、東京農工大学の公認サークルに司会や運営の御協力をいただき、各グループのファシリテーターについては、市の職員とこのサークルの学生さんとで務めることを予定しています。

◎日向委員長 事務局の説明は終わりました。第６期の市民参加推進会議で、市へワークショップについて提言をさせていただいております。それを受けて市でもいろいろ検討して、このような形になったかと思えます。このワールドカフェの運営方法についてですが、事務局に確認ですが、市民参加推進会議から意見を言うことは可能でしょうか。また、１２月８日に開催とのことですが、見学は可能でしょうか。

◎事務局 まず１点目の、市民参加推進会議からの御意見というところについてでございますが、今日伺いました御意見につきましては、運営等をお願いしております大学生にも伝えさせていただいて、検討させていただきたいと思えます。ただ、当日必ずしもそのとおりにできるかどうかということについては、この場ではお約束はできませんので、検討させていただきたいということで御理解をお願いしたいと思います。

それから、見学につきましては、見学ができる形を考えておりますが、会場の都合等がございまして、人数につきましては今後、調整をさせていただく必要が生じる場合がありますので、そちらについても御了承いただきたいと思います。

◎日向委員長 ありがとうございます。

前回お示した「提言に向けて（たたき台）」の４番、当面の日程のところにも書かせていただいているんですけれども、できれば１２月８日のワークショップに向けて、私どもとして

も、受け入れていただけるかどうかは別にして、こういった形を考えてはどうかとか、そういったことを事務局を通じて伝えさせていただくということと、それから今期の提言に向けて、ぜひ実際に様子を委員の方にも見ていただき、見ていろいろ感じられたことを今期の提言に盛り込むことができるといふふうに、私としては考えております。

そこで、今、事務局から説明のありました12月のワークショップの概要について、ぜひ委員の皆様方からの御質問や御意見をいただければと思いますが、いかがでしょうか。

◎中村委員 ワークショップの参加者ということで、資料2の項目(6)番のところに、「参加者(予定)54人」と書いていまして、「別途実施した、長期計画策定に係る市民意向調査」とありますけれども、ということは、この資料を送られた方の中から参加意思を表明された方が54名という理解でよろしいのでしょうか。

◎事務局 今、こちらについては希望を確認中でして、当日6人ずつで9グループを作りたいということを考えておまして、この市民意向調査のときに、イベントをこういった形で開いたときに参加いただけるかもしれないという方に対しまして、今、参加していただけるかどうかの確認をしております、まだ人数については54人集まっているわけではないんですけれども、その確認の作業を行っているところです。

◎中村委員 ということは、ベースはこのアンケートを送られた方という理解でいいですか。

◎事務局 そのとおりでございます。

◎中村委員 意向調査で出した方がベースでありつつも、一般参加というか、広くオープンに募っておられるということなんでしょうかという質問です。

◎事務局 こういった形で実施をすることになったときに、まずは人数がここで集まった場合には傍聴をしていただける形で、その告知についてはさせていただくことになると思います。人数が集まらないということになったときに、また募集をさせていただくということは考えられると思っております、現段階で当日の参加者を募集するということは、まだ考えて、そこまでいっていません。

◎中村委員 それと関連して、萌え木ホールというと商工会館の3階ですけれども、定員が大体、マックス80名ぐらいなのね。ということは54人が全部来れば、あと26人ということですが、26人の中には事務局もいらっしゃるの、ほとんどオープンでどっと来た場合、会場のキャパシティの面で問題があるんじゃないかというふうに思います。あそこは全部で80ぐらいしか入らないでしょう。事務局のデスクも要るわけですから、実際の参加者となると、オープンにするとちょっと大変なことになるんじゃないかと。想定の上ですけれども、人があふれ返ってしまったら大変になると。

◎事務局 そうですね、ですので、参加者についてはこの54名とさせていただいて、あと、傍聴といいますか、そういった方についても、ちょっとスペースが限られますので、人数に限りを受けさせていただくようになるとは思いますけれども、会場におさまる範囲でやりたいというふうに思います。

◎中村委員 そうですね。私が言うのもなんですが、老婆心ながらその辺のキャパシティのことをよく考えていただいたほうが、場合によっては別の会場を確保されるなど、今のうちに準備されたほうが私はいんじゃないかなと思います。54名そのまま来たら、最悪の場合、最悪じゃないですけども、一番いい場合ですが、そういうことも考えれば、そういう御準備をされたほうがいいと思います。

◎日向委員長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

◎岡田委員 補足で質問なんですけど、54人を無作為抽出、全員ではなくて、「及び学生アンケートにて参加者」となっているので、これは半々ぐらいということなんですか。

◎事務局 この市民意向調査と、学生さんを対象としたアンケート、ともにこういったイベントを行った場合に参加していただければいい方には連絡先を聞かせていただいておりますので、これも今確認の作業中になりますので、その結果によって変わってまいりますけれども、半々というところまで学生さんに多く参加していただけるかということ、ちょっとそこまでは難しいかなという感触は持っております。

◎岡田委員 ありがとうございます。

◎日向委員長 ありがとうございます。

ほかにいかがですか。

◎渡邊副委員長 まず、今あった議論の中で、これは参加者という表現になっておりますが、要は定員ということですよ。先ほど萌え木ホールスペース等を考えると、あと6人×9グループということも考えると、人数というのは、定員として54名を考えているという形になっているということによろしいでしょうか。

◎事務局 そうですね、実際にワールドカフェをやっていただく方ということでございます。

◎渡邊副委員長 そうしますと、6人×9グループということなので、おそらくグループ単位のファシリテーターが9名いらっしゃるということになると思うのですが、それはこういった比率で、市の職員と農工大の公認サークルのメンバーの方がいらっしゃるのでしょうか。大体で構わないんですけど。

◎事務局 今の予定では半々ぐらいになると思います。

◎日向委員長 確認ですが、半々というのは何と何が。

◎事務局 ファシリテーターを、農工大の学生さんと市の職員で。

◎日向委員長 わかりました。

◎渡邊副委員長 今回、多分このワークショップというのは、前回第6期で提言させていただいて、こういうところを積極的にやっていただき、市民参加の機会を増やすと同時に、職員が研修したり、あるいは多様な回路とか学びの舞台にしていただきたいということを、我々は提言しております。なので、その意味では、もちろんこの基本構想を考える上で重要なワークショップであると同時に、そういった我々の提言がどういうふうにも有効性を持っているのかの検

証をする機会でもあると思っています。検証をするために、例えば参加いただいた市の職員であるとかサークルの方々に来ていただくとか、あるいは御意見をどこかで伺って、このワークショップが実際にやったときにどういった意味があったとか、どういう経験ができたのか、それから、こういうことを本当はやりたかったけどやれなかったのかとか、そういうことを伺う機会があればいいなと思っていますが、そのあたりはいかがでしょうか。

◎事務局 現時点では、当日のファシリテーターを予定している職員等にも、その後、市民参加推進会議でちょっと感想を聞きたいとかいう話は特段しているわけではございませんけれども、この後そういった話はしてみたいと思います。いずれにしましても、当日来られない場合にはこのワールドカフェのときの感想とか、そういったことに関しては事前に聞いておくような形でお伝えできるようにしていきたいと思います。

◎渡邊副委員長 この点、すごく大事だと思いますので、ぜひ、次回の会議にお越しいただけるかは別としても、何らかの形で忌憚のない御意見を、特に市の職員の方には、これ、仕事なのというぐらいのつもりでも構わないので、忌憚のない御意見をいただければ。やっぱりただ提言をただけでは、実際に動けない提言をしても意味がないので、実効性のある提言にするためにもご意見を伺えればと思います。

もう1点なんですけれども、これはどちらかというところ、このワークショップにこういったことができればという点ですが、前回の議論でも、あるいは2回か3回ぐらい前の議論でもあったと思うのですが、先ほどのJ Cのお話もそうですけど、雰囲気ってすごく大事だと思うんです。雰囲気は、おそらくファシリテーターの方が努力するだけじゃなくて、例えばそれこそ飲み物とかお菓子を食べながらやるとか、そういったいわゆる環境的な雰囲気というのすごく大事だと思うので、可能であれば、市がやっているということであまり変なことはできないとは思いますが、すごくカジュアルな雰囲気で、好きなことを言ってもいいんだと、後は飲み食いしながらちょっといろんなことができるというような雰囲気づくりをぜひ意識していただければなと思っています。予算の問題もあるかもしれませんが、楽しくやっているというのが一番大事ななと思います。

◎中村委員 今、副委員長がおっしゃったことと関連して、やはりこの前の、J Cが行った9月9日のこのイベントと関連するところが多々あると思うんですね。今、副委員長がおっしゃった雰囲気作りというお話が出ましたけれども、実際、亜細亜大学で9月9日にも茶菓子とか飲み物が出て、茶飲み話じゃないですけど、アイスブレイクというか、話しやすい雰囲気をJ Cのほうで演出してくれました。

それとともにJ Cのメンバーの方、特にファシリテーターが各グループに、J Cの方が2人いらっしゃるんですけども、その方が事前にかなり時間をかけて、ファシリテーター同士が情報共有をしながら周到に準備されていたというのがうかがわれました。ですから結果的にJ Cのこのイベントは大成功だったと私は思うんですけども、こういったワークショップ、グループディスカッションを成功させる鍵は事前の綿密な打ち合わせ、それでファシリテーター

同士で情報共有をして、どういう方向に議論を持っていくかという準備を周到にされたということが成功につながると思いますので、参考にしていただければと思います。

◎日向委員長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

すみません、資料の確認で、(6)のところで読み方の確認なんですけど、「54人 別途実施した、長期計画策定に係る市民意向調査」となっていて、括弧があって、その括弧が一番最後までなんですけど、これをどう読んだらいいのかというのを。

◎事務局 すみません、これは括弧の付け方が間違っております。一番最後の括弧はとっていただいて、「市民意向調査（無作為抽出）」、ここに括弧が入ります。申し訳ございません。

◎日向委員長 ありがとうございます。ということは、ちょっと事務局に確認をしたいんですけども、学生アンケートというのも別途行っているということですね。

◎事務局 はい。市民意向調査とは別に、学生の方にアンケート調査させていただいております。

◎日向委員長 これは、基本計画の策定に向けたアンケートをしているということでしょうか。

◎事務局 こちらについては、長期計画ということと、それから今後、市のほうでシティプロモーションというようなことについても力を入れていく必要があると思っております。そういったことに関してもあわせてアンケート調査をさせていただいております。

◎日向委員長 このアンケートはいつごろまとまって、公表とかは予定しているのでしょうか。

◎事務局 今集まってきているところなんですけれども、まだ集計の作業を開始したところで、結果についてはまとまっていないんですけれども、まとまってきましたらお伝えさせていただきたいと思います。

◎日向委員長 ありがとうございます。ということは、54人、さっきファシリテーターは半々という御説明だったんですけれども、若者の参加というのはどのくらいを、今のところ小金井市さんとしては想定されているのでしょうか。半々ぐらい。まだそこは決めていない……。

◎事務局 年齢層についても一定、いろいろな年代の方ということも考えておりますけれども、もちろん若い方にも多く参加いただきたいと思っておりますけれども、今、参加の可能性のある方にその御意思を確認しているところになりますので、その結果にも……。

◎日向委員長 なるほど、結果によって学生が多くなるかもしれないし、少なくなるかもしれないと。わかりました。

ほかにいかがでしょうか。

◎渡邊副委員長 もう1点、もしこれが可能ならなんですけど、せっかくこういうワークショップをやっただけ、かつ若い方にも、今回は特に農工大の学生が主催でやるという、すごくいい取組だと思うんですね。こういうのを、こういった成果があることを出すときに、おそらく基本構想の計画の後ろのほうには、やりましたとすごく無味乾燥なものが出るんですけど、前回も荒城委員から御提案があったんですけれども、ポップな広告にしていく。それこそ、プロ

のカメラマンを雇うほどのお金はないと思うので、カメラが非常に得意な市の職員に来てもらったり、あるいは農工大の学生に意識して、結構積極的に写真を撮ってもらって、楽しくやっていますということをもっとPRしていったいいと思うんです。

広告なども、ただ広告を出すだけじゃなくて、市の中でこういうワークショップをやりました。結果としてこんなに活発な議論とか、あるいは楽しそうな雰囲気ですってやっていますということぜひプロモーションしていただけるようなこと、さすがに動画を撮ってユーチューブに上げるまでは言っていないので、発言しにくいということも出ちゃいますので。ただ、写真とかであれば発言内容は出ないので、もちろんホームページの掲載等は御本人の許可を得る必要がありますが、何かより積極的に、楽しくかつ実りあるものを行っているんだということPRしていただければなと思っています。なので、もちろん農工大をPRに使っていただくのも構わないと思いますし、小金井市としてもこういったものを、学生が主体でいろんなことをやり、市の職員もかかわり、そして計画にかかわっていくものを議論できているということのPRをぜひ、今のうちから練っておかないと、後でPRしても難しいんですね。なので、ぜひ写真を撮るとか、記録を作るときにもそのことを少し意識しながらやっていただければなというふうに思います。これも可能ならのコメントです。

◎日向委員長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

もしよろしければ、今、各委員の方から貴重な提案が出たというふうに私も思っておりますので、事務局におかれましては、当然、実現が難しいものもあるかもしれませんが、ぜひこういう意見があったということ農工大学の学生さんなどにもお伝えいただいて、できる限りワークショップ実施の際には取り入れていただくことを、可能な範囲で結構なのでお願いできればと思います。

また、ぜひ次回の市民参加推進会議において、ワークショップに参加、ファシリテートをされた市職員の方、それから農工大の学生さん、可能であれば御参加いただいて感想を聞かせていただきたいなと思っておりますが、それがかなわない場合でも、何か感想みたいなものを事務局のほうで聞いていただいて、資料として御提出いただければと思います。私どもとしては、できればこのワークショップの結果などを見ながら今期の提言に生かしていければというふうに思っておりますので、よろしくお願ひします。

また、当日御参加いただける方にはぜひ御参加いただきたいと思っておりますが、先ほど事務局の説明からもありましたとおり、なかなか参加スペースが限られているということもありますので、その点については別途事務局と調整をさせていただければと思います。

以上でよろしいでしょうか。

それではここで一旦、休憩をとりたいと思います。再開は8時10分ぐらいを考えています。

(休 憩)

◎日向委員長 再開いたします。

次の件ですけれども、改めまして「今期の提言に向けて」についてを議題とさせていただきます。前回の会議資料、左上に第53回市民参加推進会議資料、「提言に向けて（たたき台）」を御用意させていただいております。引き続きこの件について議論を進めさせていただきたいと思っております。前回も、想定する若者の年齢層のところですか、SNSの活用など、そのほかに幾つか御意見をいただきましたけれども、その後、こういった内容を盛り込んではどうですか、今まで議論したことを踏まえて、こういったことを検討事項、提言に向けて盛り込んでいたらどうかなど、もし御意見があれば委員の方からお願いできればと思います。いかがでしょうか。

今期の提言については、若者の市民参加ということで、前回ワークショップについて提言をしたということで、今期についてはワークショップというものをさらに充実していく視点ですか、その中で若者にもっとこういったことをやれば参加してもらえないんじゃないかとか、そういう視点を加えていくというような流れになるかなと個人的には考えておりますけれども、もし何か、こういったことを付け加えたほうがいいのではないかということがあればお願いいたします。

◎森田委員 これを言ったら天野さんに怒られちゃうかもしれないんですけど、例えばどの委員会でも、その席に課長、部長が座っているので、その席に市の若い職員、齋藤さんとか東條さんに座ってもらう。

◎日向委員長 そうですね、確かに当事者の人に……。

◎天野委員 順番にやったらどう……。

◎日向委員長 ちなみに、事務局に確認ですけれども、小金井市のこのような委員会というのは、大体、市の部長さんが委員として加わるというケースが多いということによろしいでしょうか。

◎事務局 審議会の正式な委員として出席する場合には、おそらく部長職ぐらいだと思います。

◎加藤委員 多分、職員が委員になるというのはほとんどないですね。

◎森田委員 コミュニティ文化課も一緒に、部長さんがいらしています。

◎加藤委員 数は、でも少ないと思いますね。もっぱら事務局のほうでいろいろ発言させていただいたり、こういうことがあるというのは事務局としての立場というのはかなり、総務部なんかもそうですけど、ありますけど、いわゆる公募の委員の方々と一緒になってというのは、多分、少ないと思います。今、森田委員がおっしゃったような部分というのは、できれば若い事務局の職員からなるべくというのを、事務局の立場として言ってもらえるというのはありだと思うんですけど、なかなか委員というの、若い職員が、委員という名前がついて、例えばこういう形で座ると、逆に何か萎縮しちゃうんじゃないかなというのが、感じとしてはありますね。委員というより、むしろ事務局として、事務方としてはこういう考え方があるとか、そういうほうがむしろ、もしかしたら自由な、事務局の立場のものというのは言えるかもしれないですね。

でも、今の視点はすごく大事なところだと思うので、私も代わっても全然構わないんですけども。

◎森田委員 例えば、この間市報で、婚姻届を出したときにここで写真が撮れますよというのは、若手職員、載っていましたよね。あれも、誰の発案なのと聞いたら、若い職員からというふうにあったので、あれをパッと見たときに、そうそう、こういうことなんだよねというふうに思ったんですね。あれもお金はかからないことですよ。でも、すごくいい企画だし、しかもそれが若い職員の中から出てきたというところがすごくよくて、その市報の一面を若い職員が飾ったというのはとてもよかったなと思いました。

もし、そこで参加しづらいというのであれば、それは結局、市民も同じことになるんじゃないのかなと。ここに例えば大学生や20代の委員と一緒に座ったときに、やっぱり同じ気持ちで萎縮して何かちょっと言えないかなと思ってしまうという、象徴的なことになってしまうんじゃないかなというふうには思っています。

◎日向委員長 私から小金井市さんに確認ですけど、例えばこの座席配置なんですけど、今、課長と東條さんと齋藤さん、我々の後ろに座っているんですけど、我々の中に入るという席配置は可能なんですか。

◎事務局 席配置は特に何か決まりがあって、こうしなければいけないという形ではありません。

◎森田委員 形ってすごく大事ですよ、委員長。すごく大事だと思います。

◎日向委員長 多分、事務局の皆さんもこの中に入ると、自然と発言できるんじゃないかなと、思いつきなんですけれども。後ろにいたので一步引いて、事務局を預かっていますという感じになっていますけれども、市のいろんなルールでできないのであるならば無理にとは申しあげませんが、例えば次回、試しに入ってみたらどうなるか、ちょっとやってみたらどうですかね。

◎事務局 委員の皆様とは立場が違いますので、自ら何か、同じ立場で発言するということにはいませんので、こういう、ちょっと席を変えているというのが一般的なところかとは思いますが。

◎天野委員 すみません、天野です。基本的な、かたいことを言えば審議会ということで、市長の諮問を受けて審議していただくというのが会の目的であるので、事務局は委員長、副委員長を支えるということで後ろに控えてサポートするという形をとっています。ただ、市民参加推進会議なので、若い職員が積極的に市民参加を体験するということがたまにはあってもいいのかなというふうに思っていますが、課長、どうでしょうか。

◎事務局 全くそのとおりだと思います。

◎日向委員長 この場で決められないとは思っているので、これは私からの提案なんですけれども、次回に向けて東條さんとか齋藤さんも発言できるように、例えば席の配置を変えてみるとか、あと、私からも極力発言を求めさせていただくとか、そういうことを相談させていただきたい

と思います。

◎**渡邊副委員長** 今、市民参加条例を改めて確認していたのですが、ここでは市民参加と協働に関して、特に協働の定義を、市民及び市がそれぞれの役割と責任に基づき、対等の立場で連携協力して市政を充実させ、また発展させるというふうに言っていて、要は対等の立場で連携協力することが求められていると。もちろんここはあくまで推進会議なので、まず何よりも委員が対等な立場で議論すべきなんですけど、同時にもし事務局も、市としていろんなことを、ただ委員を支えるだけではなく、対等な立場としていろんなことを議論する、本気で議論をする場としていくのであれば、試しの場として少し事務局の参加の形を、あくまで実験的にちょっとやってみるといのは、私はすごくおもしろいと思います。やってみた結果、やっぱりいまいちだとか、変わらないのであればやめればいい。失敗してもいいと思うんですよ。いろいろ試しながら、いいあり方というのを探していくためにやってみるといのは、多分、誰も文句を言わないと思います。

◎**日向委員長** 市の若い職員の研修の場にもなるかなと思いますので、せっかく今回、若者の参加ということなので、また相談しましょう。

◎**事務局** ありがとうございます。

◎**日向委員長** 森田委員、貴重な提言、ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

◎**中村委員** この前の、9月9日のJ Cの若者×地域、これで若い大学生の参加者に、どうして参加したのかと聞いてみたんです。そうしたら、委員長、それから岡田さんもおっしゃっていましたが、結局、ロコミだったと。どういうロコミかというと、J Cの会員の方が居酒屋のオーナーかマネジャーで、その人が上司で、一緒の職場で働いているアルバイトか正社員かちょっと知りませんが、そこの若い女の子が参加したということで、ロコミなんですね。ですから、SNSとかいろいろ、広く浅くという方法もありますけれども、やっぱり人的ネットワークを使ってロコミでお誘いするというのが一番効果的だなと、そのとき強く思いましたので、古いかもしれませんが、人的ネットワークを使ってロコミというのが、若者の市政参加を進めるための一つの武器になるんじゃないかと、参加して思いました。

◎**日向委員長** ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

◎**森田委員** ちょっと相反する意見になってしまうかもしれないんですけど、若者が参加していないかというところでもなくて、そのツールとかを違う形で、参加はよく見ている、知っていると思うんですね。NPOも私ぐらいの年齢の、その下の世代が立ち上げるというのは今、すごくない。じゃ、やっていないかというところ、そうじゃなく、NPOという形をとっていないだけの話で、違う方法をとっていると思うんですね。なので、別の方法、プロセスをとって意見を出している、それをうまくどこかで交差する、その場を設定するという、集約するというんでしょうか。というふうに私は、決してここで若者をどういうふうにしたらと言うほどでも

ないなというふうには実感はしています。

◎日向委員長 ありがとうございます。

ちなみに小金井市さんでは、いろんなNPOとか市民団体を束ねる組織みたいなものはあるんでしょうか。

◎森田委員 あります。

◎中村委員 NPOの連絡会というのがあります。毎年3月に、NPOの参画の団体が一堂に集まってイベントをやっています。

◎日向委員長 その団体が、小金井市のそういう団体は大体把握しているんですか。

◎森田委員 今、社協のボランティアセンターなんかまとめてはいるんですね。NPO法人連絡会と、福祉NPO法人連絡会というのがあるんですが、そこも平均年齢は上がってはいま

す。

◎日向委員長 そういう団体の取りまとめみたいなのところに聞くと、例えば若い人の団体でこういうのがあるとか、若い人がたくさん参加しているところはこういうところがあるという情報は得られるんでしょうか。

◎森田委員 そうですね、はい。

◎日向委員長 例えばそういうところを通じてうまく、市政に若い人に参加してもらおうというときには、そういうツールを使うというのはいり得るのかなと、ちょっと聞いていて思いました。

特に今、小金井市さんでそういうつながりというのは何かお持ちなんでしょうか。あまり意識的には活用はしていない……。多分、市が直接いろいろするとなかなか大変なところもあるかもしれないので、どこか頼める団体に情報収集とか、例えば若者を集めて話を聞きたいというときには、そういうところに声をかけるというのは、手法としてはあるのかなと思って伺ったんですけども、特にそのあたりについては。

◎中村委員 市教委の、生涯学習部で社会教育登録団体の一覧表というのがありますね。そこで社会教育団体に参画しているところのリストというのはいらえると思います。

◎日向委員長 どこまで提言に反映させるかというのはいらるんですけども、市が持っているいろんなリソースをもう少し有効に活用できないかというのは、視点としてはありそうな気が、ちょっと伺っていて思ったんですけども。教育委員会となるとワンクッションあるという感じなんですかね。

◎中村委員 ワンクッション、ないですよ。あります。

◎日向委員長 そんなに違う組織だという意識はないんですか。同じ市の中の一部局。

◎渡邊副委員長 先ほど森田委員がおっしゃった点の1個前段階のところさらっとおっしゃった、NPOに最近若い人が来なくなっているという話なんですけれども、先日、私は日本社会学会に行って、専門家の人と話しておもしろかったのが、そもそもNPOの数がものすごく減っている、でもそれは、社会貢献をする団体の数が減ったというよりは、NPO法人は

非常に制限が厳しいのでやめて、社団法人となっています、どんどん変わっていく。社団法人は制限が非常に緩くてやりやすくなっているという形。なので、実はそうすると、NPO法人の連絡会だけだと、もしかしたらおいしいところが抜けちゃっているかもしれない。なので、社会活動をやっているいろんなところに普段から網をかけておき、そして今まさに各委員の先生方がおっしゃられたような、非常に関心のありそうな人をどんどん釣りながら、参加してもらったり、意見を言ってもらおうというところはすごく重要なのかなと。特にこの会議でも毎年出てきますけれども、参加の審議会の年齢層別のところでも、できるだけ若い人、あるいは女性を入れていきたいという目標もあるわけなので、ぜひそういった、おそらくこれまでの既存の団体だけでは多分、漏れちゃうところも含めて意識しながら、より積極的に声をかけていくといいのかなと。それは、書こうと思ったら書けることですので、いろいろな形で既存の団体から、社会教育とか、NPOは、だんだん、そこじゃないところで活動してしまっているの、そこにも声をかけていけるような仕組みがあるといいのかなと思います。

◎日向委員長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

そうしましたら、以上で「今期の提言に向けて」を終了いたします。

次に「市民参加推進会議の今後の流れについて」を議題といたします。今期の今後の流れについて皆さんと確認をさせていただきたいと思います。事務局から資料の説明をお願いします。

◎事務局 それでは資料3「第7期推進会議行程表」を御覧いただきたいと思います。A4の横の資料となっております。左側に参考としまして第6期推進会議のときのスケジュールを掲載しております。右側が今期の、第7期の分になっております。

7期の会議は合計8回の予定となっております、本日が5回目となっております。残りあと3回ということになります。また、残り3回のうち最終回については、提言を受けまして市長から回答をさせていただく回となっておりますので、実質的には来年の2月ごろの第6回と、5月ごろの第7回の2回で提言をまとめていただきたいと思いますと考えておりますので、よろしく願いしたいと思います。

◎日向委員長 ありがとうございます。

事務局から説明していただいたとおりでございます。今期の提言については、今まで「提言に向けて」を前回と今回、議論させていただきまして、与えられた回数を鑑みますと、そろそろ方向性を固めていかないといけないころになっております。もし、今日、残りの時間で御意見があればいただければと思いますけれども、よろしければ渡邊副委員長と私に預からせていただいて、今まで皆さんからいただいた御意見を踏まえて、提言の案、たたき台を作らせていただき、6回目、来年の2月に予定しておりますが、その会議に案を提示していただき、それをもとに考えていただくというほうが議論がスムーズになるかと考えております。第6期もおおむねそのようなやり方をさせていただいたというふうに伺っております。

したがって、来年の2月、第6回で提言の案というか、たたき台を提示させていただき、

6回目と7回目、この2回で提言を固めて、第7回が終わったところである程度、提言をまとめていくと。で、来年の8月に私どもの提言に対する市長からの回答をいただくと、このような形でよろしければ進めさせていただければと思いますが、委員の皆様方、いかがでございましょうか。

(「異議なし」の声あり)

◎日向委員長 ありがとうございます。

渡邊副委員長、確認なんですけれども、今、私が説明した方向で委員の皆様方からも同意をいただいたんですが、前回も大体同じような進め方だったということでもよろしいですか。

◎渡邊副委員長 はい、なので6回で完全な文章には、ある程度余裕を持たせることと、先ほどの御議論もありましたように、ワークショップを終えての感想の検討であるとか、もし可能であればその参加者への御意見等を伺う、そういったこともぜひ反映させていきたいので、おそらく6回目で委員長や事務局の方とも相談をさせていただきながら、ある程度の、もしかしたら箇条書きに近いものかもしれませんが、方向性を見て、第7回ではしっかりと文章になったものを、より精緻に叩いていただくという形で提言を作っていければというふうに思っております。ただ、当然ながらこの間にいろいろ思いつかれることもありますので、それは暫時、どんどん盛り込んでいくという形で考えればと思っております。

これは私の意見ですが、そういった形で進めていくと、ほぼ前回どおりになるのかなと思っております。

◎日向委員長 ありがとうございます。

特に皆様方、御意見はよろしいでしょうか。

天野委員、加藤委員も大体そういう進め方でよろしいですね。

(「よろしくをお願いします」の声あり)

◎日向委員長 それでは、以上で、「市民参加推進会議の今後の流れについて」を終了いたします。

次に次第2の(3)「次回推進会議の開催日について」を行います。

協議のため、一旦休憩をいたします。

(休 憩)

◎日向委員長 再開いたします。今回は2月15日金曜日、夜7時から開催したいと思いますですが、いかがでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

◎日向委員長 御異議なしと認めます。今回は2月15日金曜日、夜7時から開催いたします。

本日の議事は全て終了いたしました。以上で閉会いたします。ありがとうございました。

(午後8時39分閉会)